



# あかべこ通信

## 教育目標

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」  
令和7年2月12日（水）発行  
第41号 発行責任者：佐藤盛俊

## 「情けは人の為ならず」

2月4日（火）の朝の会で、「情けは人の為ならず」について、話をしました。一見、「親切にしてあげることは、その人の為にならない」と間違って解釈してしまう人も多いかと思います。

文化庁が実施した「国語に関する世論調査」では、次のような結果になりました。

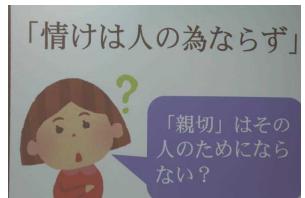
「情けは人の為ならず」の意味は？	H12 調査	H22 調査	R4 調査
人に情けを掛けておくと、通り巡って結局は自分のためになる。【○本来の意味】	47.2%	45.8%	46.2%
人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない。【×間違った意味】	48.7%	45.7%	47.7%

この結果を見ると、正しい意味を知っている人と、そうでない人の割合は、半々だということが分かります。そして、約10年前も約20年前も、その結果はほとんど同じであるということにも驚かされます。

朝の会では、イソップ物語の「池に落ちたアリ」を題材にして話をしました。

「池に落ちたアリ」（要約）

水の中にアリが落ちた。ハトは木の葉をちぎって、アリに落としてやった。何の縁もゆかりもないハトの情けで、アリは命を救われた。アリはハトに何度も礼を言うと、ハトの背後から猟師が近づいてくるのに気付いた。アリは、「今こそ、恩返しを！」と決意し、必死に猟師の足を登り、力一杯かみついた。「あっ、痛い！」という猟師の声に気付いたハトは、間一髪で逃げることができた。



親切にしてあげられる場面で、「見て見ぬふりをしない」「ためらわない」「自分がされる側だったらどうか考える」ことを大切にしてほしいです。そして、その親切は、「その人の為」ではなく、やがて返ってくる「自分のため」だということを認識してほしいと思います。

## ～大雪に伴う対応に感謝～

近年まれに見る大雪により、授業時間の短縮や登校時間の変更、そして2月7日の臨時休業と、突然の変更にもかかわらず、ご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、車での送迎につきましても、役場前を利用する等のご協力をいただいていることに、重ねて感謝申し上げます。

通学路は、危険箇所がたくさんできています。屋根の雪、雪の壁、歩道がない場所等、今まで以上に「考える力」が問われます。最悪を想定しながら、自分の身を自分で守るように指導しますので、ご家庭でも一声かけていただければと思います。



### 祝 受賞報告

- ・福島県書きぞめ展 奨励賞【2年：齋藤ひなた】
- ・会津やないづ冬まつり書き初め展の部
- 金賞【1年：渡部栞帆、2年：齋藤ひなた、3年：牧野友香】
- 銀賞【1年：三宅羚央奈、2年：廣木瑠葵、3年：小林 巧】
- 銅賞【1年：田崎正羅、牧野兼伸、2年：白井亮太、田崎颯華、3年：五十嵐愛佳、栗城友彩】

